

# 《 DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座 》

## [1] 研究テーマ

新しい学術コンテンツ構築のあり方に関する研究開発, 及びそれを支える制度基盤としてのデジタルアーカイブのあり方について

## [2] 経緯

本学情報学環がこれまで取り組んできたeラーニングやデジタルアーカイブの研究において, より実践的取り組みを行う趣旨の計画について大日本印刷(株)の賛同が得られ, 同社実務者も交えた研究開発環境を立ち上げることとなる。

## [3] 組織概要

■設立: 2015年11月1日(～2018年10月31日, 3年間)

■設置: 東京大学大学院情報学環

■講座スタッフ:

### 【東京大学大学院情報学環】

吉見 俊哉 教授  
柳 与志夫 特任教授  
時実 象一 高等客員研究員  
生貝 直人 客員准教授  
東 由美子 特任講師  
井関 貴博 客員研究員  
久永 一郎 客員研究員  
前沢 克俊 客員研究員  
平野 桃子 客員研究員

### 【アドバイザー】

高野 明彦 国立情報学研究所 教授  
杉本 重雄 筑波大学図書館情報メディア系 教授  
福井 健策 弁護士・日本大学芸術学部客員教授  
長丁 光則 東京大学大学院情報学環 特任教授

## [4] 活動内容

### [4]ー1 学術マイクロコンテンツ教材活用プロジェクト

学術書・専門書など著作権のある著作物について、高等教育の教材として合理的に部分再利用を可能とするライセンスモデル構築に向け、3分野（人社系・理工系・医学系）に分けて基礎研究（実験）と技術開発を行う。

#### ① 人文社会系

今年度より情報学環に新規講座を開設、デジタル教材の多様な実証実験を予定。

- ・ 科目名：「デジタルアーカイブ原論」
- ・ テーマ：論文作成のためのデジタルアーカイブ
- ・ 開講時期：A1・A2, 水曜日, 3時限
- ・ 担当教員：柳教授, 東特任講師 ほか10名

#### ② 理工系

名古屋大学と学術出版社2社の協力のもと、専門書10タイトルの教材活用実験実施中。

- ・ 実験時期：(第Ⅰ期)2016年9月～2017年2月  
(第Ⅱ期)2017年9月～2018年2月

#### ③ 医歯薬・看護系

某医科大学に対して、医学教育教材の特性に合わせたマイクロコンテンツの活用実験企画を提案中。

## [4] 活動内容

### [4]ー2 地方紙デジタル化・活用プロジェクト

デジタルデータになっていない古い地方新聞について、学術利用はもとより、我が国の貴重な文化資源の保存と活用を図る観点から、課題の整理と活用方法を探る。

#### ■全体プログラム策定委員会の設置(2016年12月～)

- ・メンバー(敬称略):植村(専修大),柴野(上智大),丹羽(東大),松岡(学習院大),柳・時実・東・平野(以上 DNP講座)

#### ■全国主要地方紙のデジタル化状況調査実施(日本新聞協会との共同調査)

- ・調査対象:日本新聞協会加盟の地方新聞社(全73社)
- ・調査期間:2017年2月～4月
- ・質問項目:原紙・縮刷版・マイクロフィルム等の保存状況  
デジタル化状況(公開／非公開,公開開始の年月日,公開基準など)
- ・回答社数:45社(回答率61.6%)  
\* 現在,調査結果の集計作業中。

#### ■調査結果の発表(予定)

- ・2017年6月6日(火) 14:00 報道資料研究会での報告(日本新聞協会主催,於神戸)
  - ・2017年7月13日(木) 午後 研究フォーラム開催予定(DNP講座主催,於東京)
- ⇒報告書を作成し,原紙デジタル化の問題点,デジタル化記事活用の現状・課題等の分析を行う。

## [4] 活動内容

### [4]ー3 ビヨンドブック (Beyond Book) プロジェクト

現状のクローズドなパッケージ系電子書籍とは異なり、デジタルアーカイブの蓄積する豊富なコンテンツを利用して、インタラクティブ性・改変性、コンテキストのテキスト化、多言語化などデジタル・ネットワーク機能の特性を活かし、実用化を前提とした新しい電子書籍の製品デザインと流通・リテールモデルを検討する。

#### ■メンバー(敬称略)

柳 与志夫 東京大学特任教授 (座長)  
大向 一輝 国立情報学研究所 教授  
木村 尚貴 朝日新聞社  
前田 俊秀 三修社 社長 他10名

#### ■検討期間

- ・第Ⅰ期:2017年4月～9月
- ・第Ⅱ期:2017年10月～2018年3月

#### ■成果目標

- ・次世代デジタルブックの製品デザイン, およびビジネスモデル提示
- ・それに基づくプロトタイプ制作と, 流通・リテールモデルの提示

## [4] 活動内容

### [4]ー4 制度基盤構築

学術コンテンツ等の流通・利用を促進するための制度的基盤を構築する。

#### ① デジタルアーカイブ研究機関連絡会 (DARA)

予算, 人材養成, 研究基盤整備等全国のDA関連研究機関共通の課題解決に向けて, 政府等関係機関に政策提言等を行なう。

- ・参加機関数: 22機関
- ・発足日: 2016年6月1日

#### ② デジタルアーカイブ推進コンソーシアム (DAPCON)

デジタルコンテンツの流通・利用とその基盤となるデジタルアーカイブ構築・活用を促進するため, 関連企業及び産学の連携を強化し, 技術開発, ビジネスモデル開発, 制度整備等に取り組む。

- ・参加企業数: 23社
- ・発足日: 2017年4月1日

#### ③ デジタルアーカイブ学会 (JSDA)

産官学民を横断した研究者・実務家が集うことにより, 人材育成, 技術開発, メタデータを含む標準化, 法制度研究等理論・実務の両面で成果を出していく。

- ・会員数: 正会員(約150名), 賛助会員(15機関)
- ・発足日: 2017年5月1日